



クリスマス

第24号

2016年12月1日

一般社団法人

自立生活センター三田

通信・発行

いのちの重み



2016年7月26日 起こってはならない事が起こった。

相模原市緑区千木良にある障害者施設で、19人の命が失われたのだ。

「障害者はいなくなればいい」容疑者のこの言葉は、さまざまな立場を超えて多くの人々の内なる思いに強い衝撃をあたえた。

『障害者はいなくていい』の事件後出された数々の障害者団体の声明文は「優生思想」が過去ではないと言った声明が多くあった。19人の命は公表される事なく早くも3ヶ月が過ぎようとしている。名前が出されない事については一般論の中でいくらか問題にされていたものの、マスコミからも世間からも遠くの出来事として忘れ去られようとしている。個人でなく人数で表された19人のひとりひとり。名前を公表したがる家族に同意してしまう社会とはなにか？

名前のないものは現実には存在しない。

名前とは存在でありいのちなのだ。名前を持たない人はいない、知人から「その人」なんて呼ばれたらいい気はしないだろう、ちゃんと名前と呼んでと言いたくなりはないか？

あまり会わなかった人の名前を聞くとうれしくなったり、思い出したりする。

19名の氏名が公表されていたら、なつかしく思い出す人もあつたらう。

人は二度生きると言う、一度目はこの世に生を受けた時、二度目は人の中に生きる時。

たとえ形として見えなくなっても、人の心の中に生き続けることができる。しかし氏名を伏せられると言うことは二度もいのちを奪われたことにならないか！！

『障害者はいなくていい』の言葉の向こう側に密かに広がる思想を忘れてはならない。ひとつの出来事として終わらせてはいけない。(よしだ)



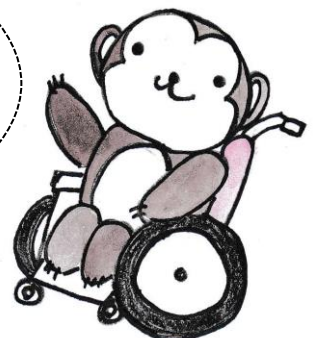
もくじ

☆相模原事件について

☆ぴあぴあおしゃべり りんぐ12月クリスマス会

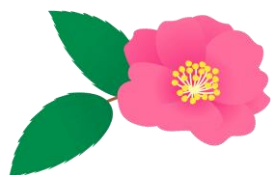
のお誘い

☆研修・上映会・実習



さがみはらししょうがいしゃさっしょうじけん

相模原市障害者殺傷事件への せいめいぶん よ



声明文を読んで



スタッフが感じたことを紹介します

たとえどんな障害を持っていたとしても、人権が尊重されるのが、いまの社会において常識であり、共通概念である中、このような事件が起きたことにとっても悲しく思います。しかし、犯人のような思想を持つ人が社会には少なからずいることを深く考えるべきだと思います。また、障害者一人一人が地域で自立し、暮らせる社会があれば、これだけの大量殺人事件は起こらなかつたらうと思います。

K.S

今回読んだ3つの声明文と川口有美子さんの原稿全てに共通して、今回の事件の本質は残忍な犯人でも精神障害への医療制度でもなく、社会にはびこる優生思想であるという主張である。確かに、どんなに制度が改善されようが、それは社会の根底にあると思う。報道で個人名が出されなかったことについても、神経筋疾患ネットワークの声明文にある「人格をもつ一人の市民として見ていない思想が見え隠れする」「19名とひとくりにされることで、個人の存在が消された」とまで極端にとることはないが、確かに障害者と健常者の扱いの違いが出ていると感じた。また、精神障害者狩り的な方針に傾きつつあることも深刻な問題であると思う。

川口有美子さんの原稿に「意思疎通ができない人の存在が無意味に思えて仕方がなかった。」という記述があったが、確かにわたしも、障害がありながら自分の人生を楽しんでいる人を知らなければ、重い障害を抱えて生きるのはつらいだけだと考えたかもしれない。自分の思想を変えなければならないというのは十分に分かったうえで、批判を恐れずあえて健常者である私個人の意見を言わせてもらおうとすれば(この時点ですでに健常者と障害者を区別しているという批判は一度抑えてほしい)、逆にそういう機会が全くない状態では、「かわいそう」と感じるのは仕方のない面もあると思う。障害者の方たちが「障害者をかわいそうと扱う社会が悪い」と主張するのを聞き、「社会＝健常者」として自分たちが悪者扱いされているように感じるたび、実際の障害者の生活やその人たちが人生を楽しんでいる姿を見られる機会がないままに、想像するしかない状態で間違った結論に達するのは仕方のないことじゃないか。だって、現実には障害者ができることは健常者に比べると限られているのだから。だから私たち健常者ではなく、健常者が障害者にかかわり、その間違った考えを是正する機会のない日本の現状を憎んでほしいと思ってしまうのだ。

だからこそ、今回の事件をきっかけに障害者の自立生活の重要性を再認識した。初めに障害者

への質的・量的に十分な支援体制が確立されることで障害者の自立生活が実現され、障害者も健常者と同じように暮らしている姿を見ることによって、社会の障害者への認識も変わっていくのだと思った。自立生活の実現は、当事者だけでなく、多様性を理解する成熟した思考を得られるという点で地域社会にも利益があると思う。そして、そのために国に嘆願するだけではなく個人レベルでできることから始めていくことも重要だと思った。

H.H



この日本には優生思想があると感じます。障害という括りだけでなく、学力や仕事のできるできないなど、要因は様々だと思います。この犯人の持つ独特の考えは障害者を低く見るというものでした。地域に生きる障害者を支えるというアルバイトをしている私ですが、地域に生きる障害者は自由に健常者と変わらない生活をしていると思います。好きなところに行き、好きなものを食べて好きなものを着ています。それとは反対に、施設に暮らす障害者の方々はどうか疑問に思います。今回の事件も施設の障害者を狙った犯罪でありましたし。施設を出て、地域に生きられるよう、背中を押してくれるような法律や制度ができればと思っています。そうすれば、障害者に対する劣等な視線は少なくなると思います。

K.M



私は相模原市の障害者施設で起きた障害者殺傷事件に対し、深い悲しみと憤りを感じます。亡くなられた方々には心よりご冥福をお祈りし、負傷された方々には心よりお見舞い申し上げます。

私は相模原市障害者殺傷事件に対する声明文を読み、日本社会に「健康な身体と心を持つことが人として正しく、障害を持つことは人として劣っているという優性思想」が根付いてしまっていると思いました。私は日本の社会のあり方が、優性思想が芽生えてしまう問題であると思います。なぜなら、私は現在の社会では健常者と障害者のつながりが少なく、健常者と障害者とが共に暮らせる社会にはほど遠いと思うからです。私は大学に入り、サークルやアルバイト等を通して、障害者の方と関わりがありますが、それ以前ではほぼ全く障害者の方と関わりを持つことがありませんでした。私は健常者と障害者が関われる場をさらに設けることで、人びとの障害への認識を変えることができ、今回のような障害に対する偏見で起こった残虐な事件等の問題がなくなると考えると同時に、人びとが優性思想に捉われず、無知ゆえに起こる障害者への差別がなくなると考えます。 T.N



私はこの事件を知って、特に、介護という仕事に関わっている立場として恐怖を覚えた。この事件では、世間一般の反応の中に、「弱者を狙うなんてひどい」というものが多いということについて、障害者だから、とかではなく、人間だから殺してはいけない、何よりもまず殺人はいけない、という当たり前の怒りが少ないのではないかと感じた。

犯人の動機の根底にある「障害者はあるべきでない、価値がない」という思いは、実際にその思いを行動に移したのが犯人であり、加害者だけでなく、実は障害のない人たちの心の奥底にも眠っている感情だと思う。この機会に、一人ひとりが自分の心に内在している闇に気づき、障害があってもなくても、皆同じように必要とされ、誰もが自由な生活をしたいということ、たくさんの人にもっと考えてほしい。また、今回の事件では、被害者の名前など個人情報、ほとんど明かされていない、ということも問題であると感じた。報道には、障害当事者たちの意見をもっと反映するべきであり、実際に彼らを感じている問題意識を、様々な境遇の人たちで、共有すべきだ。誰もが自由で、安心して生活を送れる社会のためには、自分とは関係ないと思うことなく、一人ひとりが自分にも起こりうる事であると、問題意識を強く持たなければならないのではないか。このような悲惨な事件が二度と起こらないよう、犯人個人の問題だけでなく、彼に優生思想を招いたかもしれない原因ともいえる社会がもつ問題にも、たくさんの人々が目を向けることになり、これを機に、現在の介護職や福祉制度についての考え方が前向きに変わってほしい。

K.Y



2016年7月26日に起きた相模原障害者殺傷事件を知ったのはテレビによるマスコミの報道でした。それらにより事件の全容を知った私の率直な心情は容疑者に対する悪感情と偏見であり、どうしてこんなひどいことができるのだろうと心から思いました。容疑者の障害者に対する思想は非情なもので共感することは絶対にありえません。しかし、現在まで続く障害者が普通に暮らすことが困難な社会状況は、事件の容疑者に限ったことではなく、この社会で暮らす全ての人々の中で少なからず容疑者と同様の思想が抱かれていることを示唆しているように思います。また、マスコミに流され措置入院のあり方を改善する必要があるのではないかと考えていた私にとって、この事件に対する精神障害当事者の声明文は私自身無意識のうちに精神障害者を差別視していたことを自覚させ、羞恥の念がこみ上げました。今回の事件は、マスコミの報道が人々のいまだ消えぬ障害者差別の意識を増長させ障害者の人権を深く侵害するものであったと考えます。そして声明文を通しこの事件を障害当事者の視点から見つめることで、マスコミの報道を鵜呑みにした自分の中の隠れた障害者差別の意識を自覚することとなった胸を衝かれる経験となりました。

Y.Y



報道でこの事件について初めて知った時、どの様にして行ったのかという事よりも、どのような気持ちでこのような行動に出してしまったのか、という事のほうを知りたかった。容疑者いわく「障害者はいなくなれば良い」という。どうしてそのような思考になってしまうのか・・・まるで今世界でも問題になっている宗教闘争の様だとも感じた。他の宗教の信者は殺してもかまわないという思想はとても恐ろしいと私は感じるが、そう信じて

いる人々にとっては何の疑いもなく受け入れていることなんだと思うと、人の良識や常識というのは共通ではないのだと思い知らされる。声明文でおっしゃっているように、まずはもっと障害を持っている方々の生の声を取り上げ、社会における障害への認識を変えていくことこそ、このような事件が2度と起こらないようにするために必要なのではないかなと思う。

M.M



「障害者は生きていても無駄」「安楽死させた方がいい」

「不幸を減らすため、同じように考える人もいるはずだが、自分のようには実行できない」と犯人は供述しているという。

また一方で、「こんな歪んだ考えをもった者はいない」「みんな障害者に対する差別心は持っていない」と言えるだろうか？

差別心は政治的にもいろいろと利用されてきた古い歴史をもつ。

戦後、不良な子孫の出生を防止する「優生保護法」が制定され、人々により一層の差別心を強く常住させてしまったように思う。

労働能力で人間の価値に優劣をつけ、強者だけを残そうとする優生思想は、経済低迷などによる世相の変化により、障害者のみならず病人や高齢者・貧困者などに連鎖していき、いつ自分に降りかかってくるか分からない怖さを秘めている。

障害のあるなしに関わらず、人間はひとりひとり性格も考え方も違う。

そんな違いを認め合う社会を築くには、個々が差別の芽に気づき、社会の中に歴然と存在する差別的意識そのものを改革していくしかないのではないだろうか。

M.O

「けんしゅう」



☆平成 28 年 8 月 8 日(月) ビデオ鑑賞研修

戦後史証言「戦後 70 年の福祉の歩み」

高齢化が進み、誰もが病気や障害とは無縁でなくありつつある今、戦後の障害者政策立案に関わった人たちの証言をもとに「障害のある人もない人も共に暮らせる社会」へのヒントを探りました。障害者の自立生活に向けた苦闘の戦後史と障害者福祉法の歴史について知ることにより、より理解を深められたのではないかと思います。

スタッフの声

研修で学んだこと……◎障害を持たれた方にしかその苦しみ、痛みは分らないんだということ。

◎障害者に対するサービスはたくさんあるけれど、そのサービスすら受けられない障害者もいるという事を知った。

◎たくさんの人の苦勞と努力によって立案された歴史を知ることは、非常に大切なことだと思った。

これからの課題…… ◎本人にしか分らない苦しみ、痛みであっても常に相手の立場になって考えられる自分でありたいです。世の中の人と同じ思いになるような活動に協力していきたいです。

◎他者に対して無関心じゃいけない。無知ではいけない。

◎同情するのではなくて、助け合うのが当たり前というところがまえでいたと思いました。

調理実習



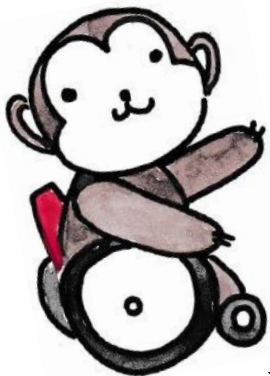
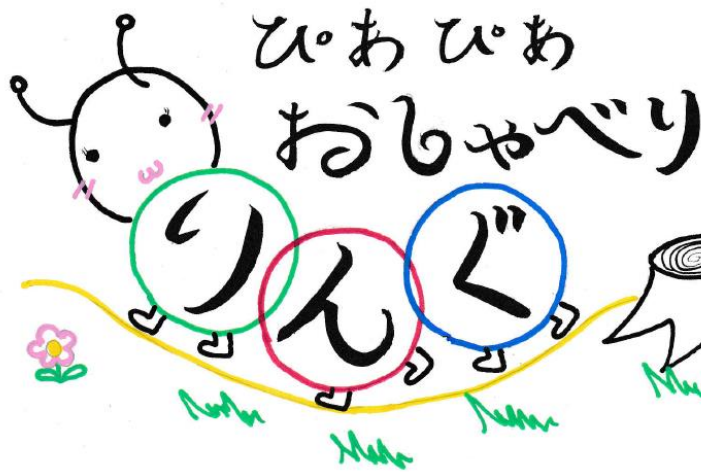
小林真由美先生の軽快な指導よろしく
スタッフたちも楽しく、ご馳走作りを
学ぶことができました。
今後の食事づくりに期待がもてそうで
すフムフム……

研修目的

食材を無駄なく使い、栄養バランスのよい献立を
考えて、段取りよく調理します

- 1) ひじき入り混ぜご飯。
- 2) 鶏肉とごぼうのごま照り焼き
- 3) 豆もやしとにんじんとほうれん草のごま和え
- 4) 豚汁
- 5) 白ごまプリン
- 6) カスタードクリーム&生クリーム&バナナの
クレープ





あんしん はな ば
安心して話せる場をつくります。
しょうがい どうし きらく
障害のあるひと同士、気楽におしゃべりしませんか？

☆つらいこと、いやな思い、我慢していること、知ってよかった情報
とうとう とうとう つた じょうほうし さくせい かんが
等々、どのようなことでもお伝えできる、情報紙の作成を考えてい
ます。

みな かか もんだい さんだし せつび はな あ
◎皆が抱えている問題や、三田市の設備について話し合いました。

あし ふじゆう かた くるまいす かた ほかだれ つか せつび
(足の不自由な方、車椅子の方、その他誰もが使いやすい設備とはどのようなものなのか)

しょうがいしゃとくべつじょうれい いま ことがら じょうほうこうかん おこな
◎障害者特別条例もできたので、今までにあった事柄などについて情報交換を行いました。

おお かた さんか ま いけん ようぼう だいかんげい
◎ぜひぜひより多くの方のご参加をお待ちしています。ご意見、ご要望のみでも大歓迎です。

ばしょ さんだしそうごうふくしほけん
【場所】 三田市総合福祉保健センター

【日時】 2016年12月14日(水) ・ 2017年1月18日(水)

13:30 ~ 15:30



と 飛び入り参加も大歓迎です！

【お問い合わせ・お申込み】 自立生活センター三田

☎079-567-3578

mail:cil_sanda@yahoo.co.jp



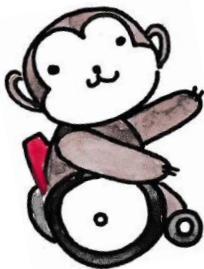


(編集後記) 今年も、障害者が被害に遭われる事件や災害時の逃げ遅れ等、暗いニュースが続きましたが、きっといいこともあるはず！希望を失くさず、私たちの周りには小さな良いことも見逃さないでください。そうすると自然に笑顔が増えるとおもうんです。「笑う門には福来る」って結構本当だと思いますよ。

(前川)



☆障害を持っている方



自立生活センター三田のスタッフになって働きませんか？

ピア・カウンセリングやクロニクル編集などなど、他市の障害の仲間との交流をひろげましょう！！そして、悩みや不安を共有しながら、一緒に自立生活センターをつくってみませんか。

(交通手段等何でも、相談に応じます)

☆介助スタッフ募集

障害を持つ方の生活を支えるやりがいのあるお仕事です。資格、経験のない方でも相談に応じます。

(資格取得応援します)

時間 ①10:00～19:00 ②19:00～8:00

(短時間でも、相談に応じます)

☆ボランティアさん募集

各種イベント、クロニクル活動などなど、ご興味のある方は、是非ご連絡ください！

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

2016年10月15日発行

一般社団法人 自立生活センター三田

三田市駅前2番1号 三田市まちづくり協働センター6階気付

☎ 079-567-3578 <http://cil-sanda.jimdo.com/>

✉ cil_sanda@yahoo.co.jp

